

パシフィックシステム株式会社
2014年3月期
決算説明会

2014年6月20日

代表取締役社長 久保 永史

- ◆2014年3月期 決算概況
- ◆2014年度 の見通し

2014年3月期 トピックス

主なIR情報

[画像処理システム]

- ◆ 枚葉検査装置の出展
- ◆ 光沢品検査装置の開発

[特許]

- ◆ 「粒状体の粒度分布の測定システム」を正式登録、他出願2件

枚葉検査装置

NEW

枚葉物の製品形状や印刷の欠陥を検出します。
基本最少構成で導入しやすい低価格を実現しました。

検査対象物

紙製包材／製品(ラミネート加工も可)、樹脂製包材／製品、
品、不織布製包材／製品、貼付製剤、缶製品 など

検出項目

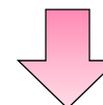
- ピンホール、抜け
- インク飛び
- むら、ズレ
- 筋上・点状欠点
- 汚れ
- 形状異常

特徴

- 選べる「精度・速度・価格」
- 対象や検査内容に合わせたシステムが構成できます
- 透過・反射の両検査に対応(オプション)
- 1検査ユニットで最大4チャンネル対応
- 品種は256件登録可能
- 10万件以上の結果を保存
- 各種構内サーバーや管理PC、PLC等と連携(オプション)

■検査画像■

、クリーム、脱脂濃縮乳、卵黄、砂糖、ウエハース、カスタード
卵黄粉末、ココアバター)、ミルクコーティング(植物油脂、砂
オイル、食塩、植物レシチン(大豆由来)、香料、カラメル色
(原材料の一部に小麦粉、卵白を含む) 内容量:60ml



■検出結果画像■

、クリーム、脱脂濃縮乳、卵黄、砂糖、ウエハース、カスタード
卵黄粉末、ココアバター)、ミルクコーティング(植物油脂、砂
オイル、食塩、植物レシチン(大豆由来)、香料、カラメル色
(原材料の一部に小麦粉、卵白を含む) 内容量:60ml

光沢面検査装置

NEW

表面に光沢のある製品でも光沢の影響を受けずに表面の外観検査を行います。
なだらかな凹凸や打痕キズ等の欠陥を検出。
基本最少構成で導入しやすい低価格を実現しました。

検査対象物

光沢(鏡面)素材の検査が可能
金属面、光沢面(アクリル樹脂等)、透明体(フィルム、ガラス等)

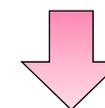
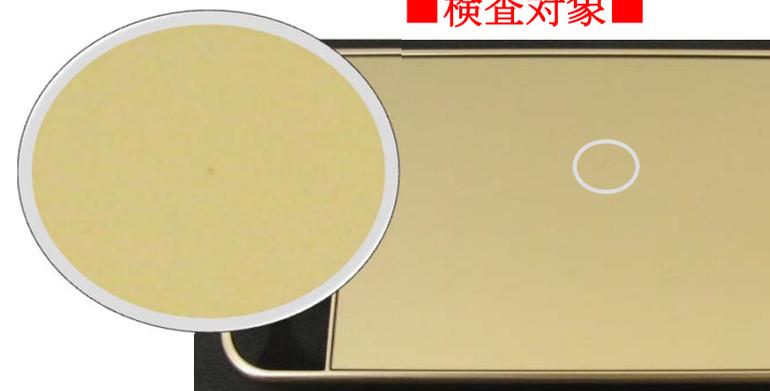
検出項目

- 打痕キズ
- 凸凹
- 汚れなど

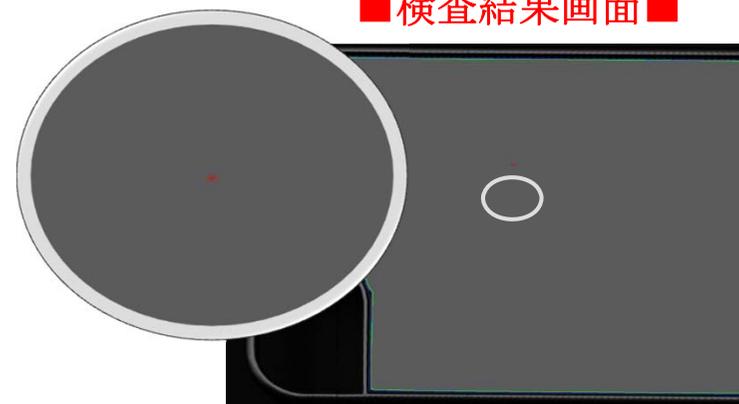
特徴

- 透明フィルムの外観を検査
- 打痕、気泡、ハガレ、折れ、異物などさまざまな検査項目
- フィルムにたわみがあっても検査可能
- 既設のラインにも設置可能(吸着などの特殊な搬送系は不要)

鏡面パネル上の打痕キズ検出
■検査対象■



■検査結果画面■



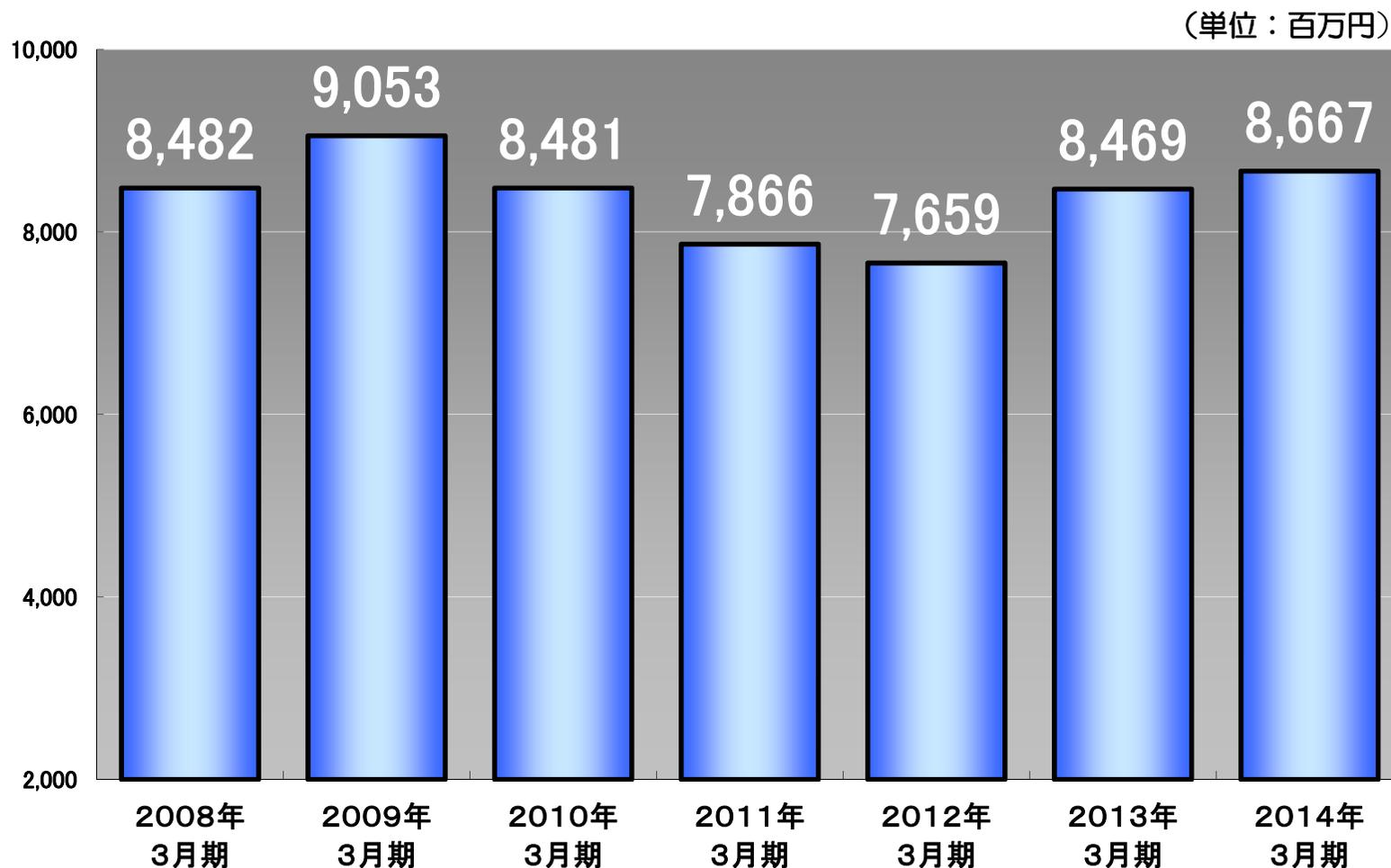
2014年3月期 連結決算概況

決算期	2013年 3月期 (A) (百万円)	2014年 3月期 (B) (百万円)	前期比 (B-A) (百万円)	増減率
売上高	8,469	8,666	197	2.3%
売上総利益 (利益率)	1,804 (21.3%)	1,834 (21.2%)	30	1.7%
販売管理費	1,355	1,389	33	2.4%
営業利益	448	445	▲2	▲0.7%
経常利益	473	460	▲13	▲2.8%
当期純利益	281	252	▲29	▲10.4%

2014年3月期連結決算は、前期比で「増収、減益」となりました。

- 売上高は、システム販売、システム運用・管理等及び機器等販売が増収
ソフトウェア開発が一部案件の次期ずれ込みにより減収
- 利益は、売上高が増収となったが開発遅延による原価増、アフターコストの発生等により
売上総利益は微増、営業利益は販売管理費増加等により減益

2014年3月期 売上高の推移



- 売上高は2012年以降増収基調に転じております。

2014年3月期 事業区分別の売上高

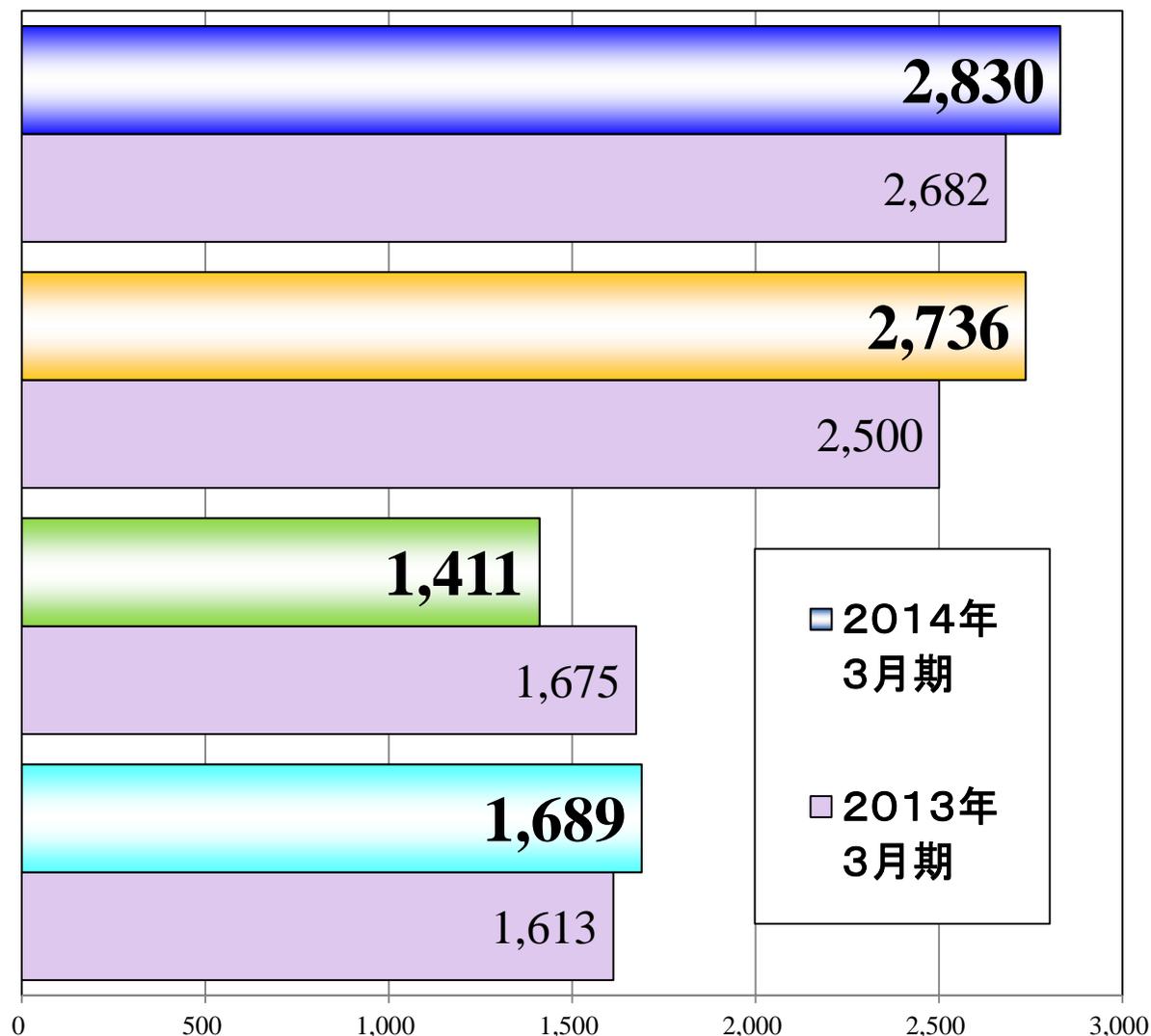
(単位：百万円)

システム運用・管理等
 データセンタ業務、システム運用支援、サービスなどの運用業務が増加し増収

システム販売
 画像処理システムが減少するもインフラサービス及び生コン業界向けシステム及び医療システムが増加し増収

ソフトウェア開発
 一部案件の次期ずれ込み等で減収

機器等販売
 PC更新などの機器販売が増加したことにより増収



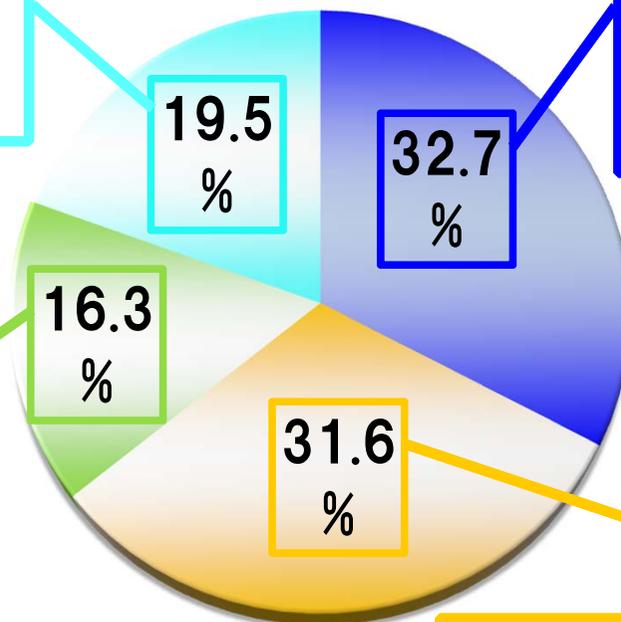
2014年3月期 当社の事業区分（セグメント）

機器等販売

- パソコン・サーバ及び周辺機器
- パッケージソフト等の仕入・販売

システム運用管理等

- システム運用・管理サービス
- データセンタ
- パソコン教育、保守サービス



ソフトウェア開発

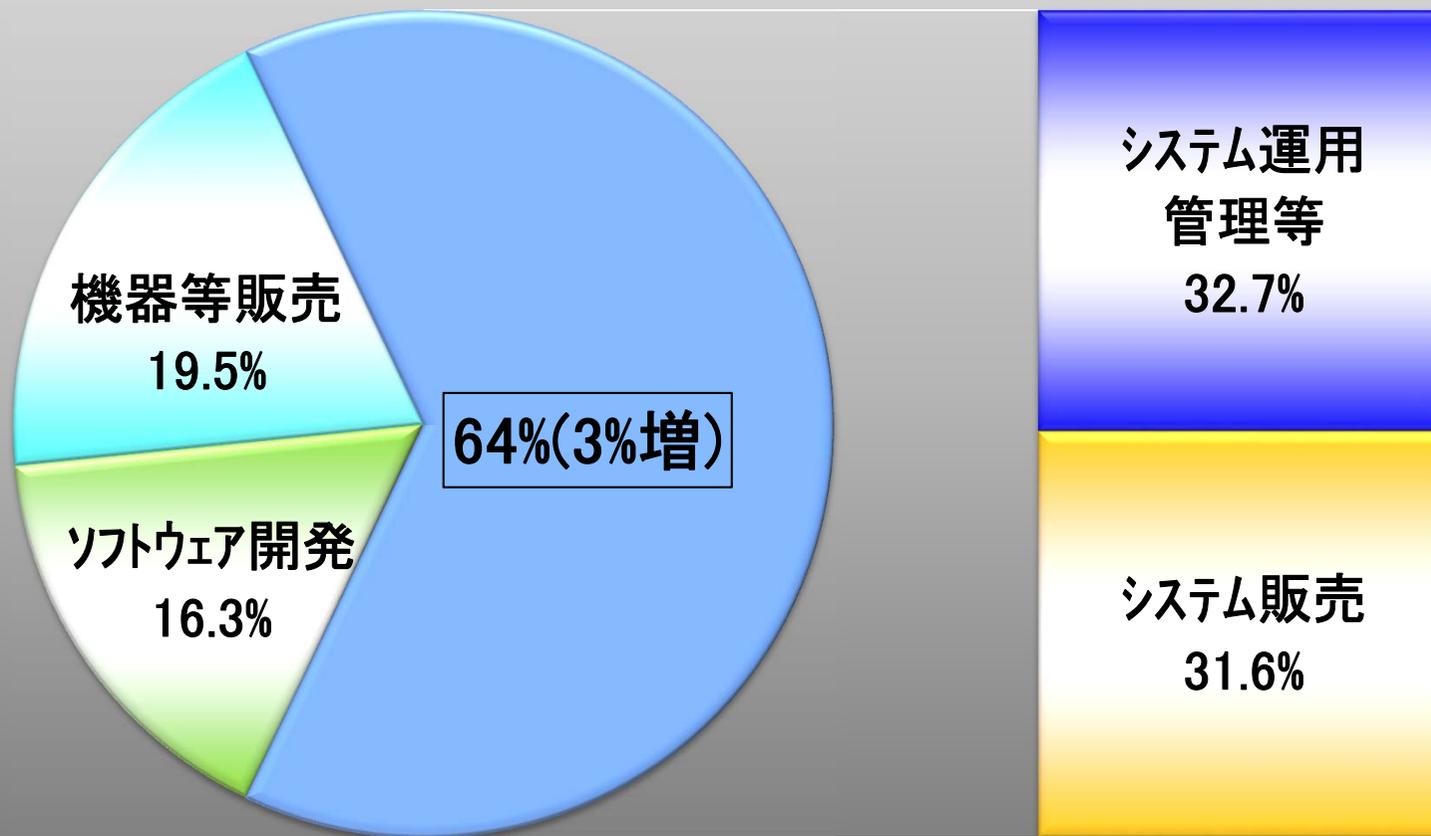
- 製造・流通・金融業等のアプリケーションシステムの受託開発
- 製造業向けERP事業のコンサルと開発

システム販売

- 画像処理システム
- 生コンクリート業界向けシステム等販売
- ネットワーク構築等のインフラサービス

2014年3月期 事業区分の構成比

事業区分別売上高の構成比

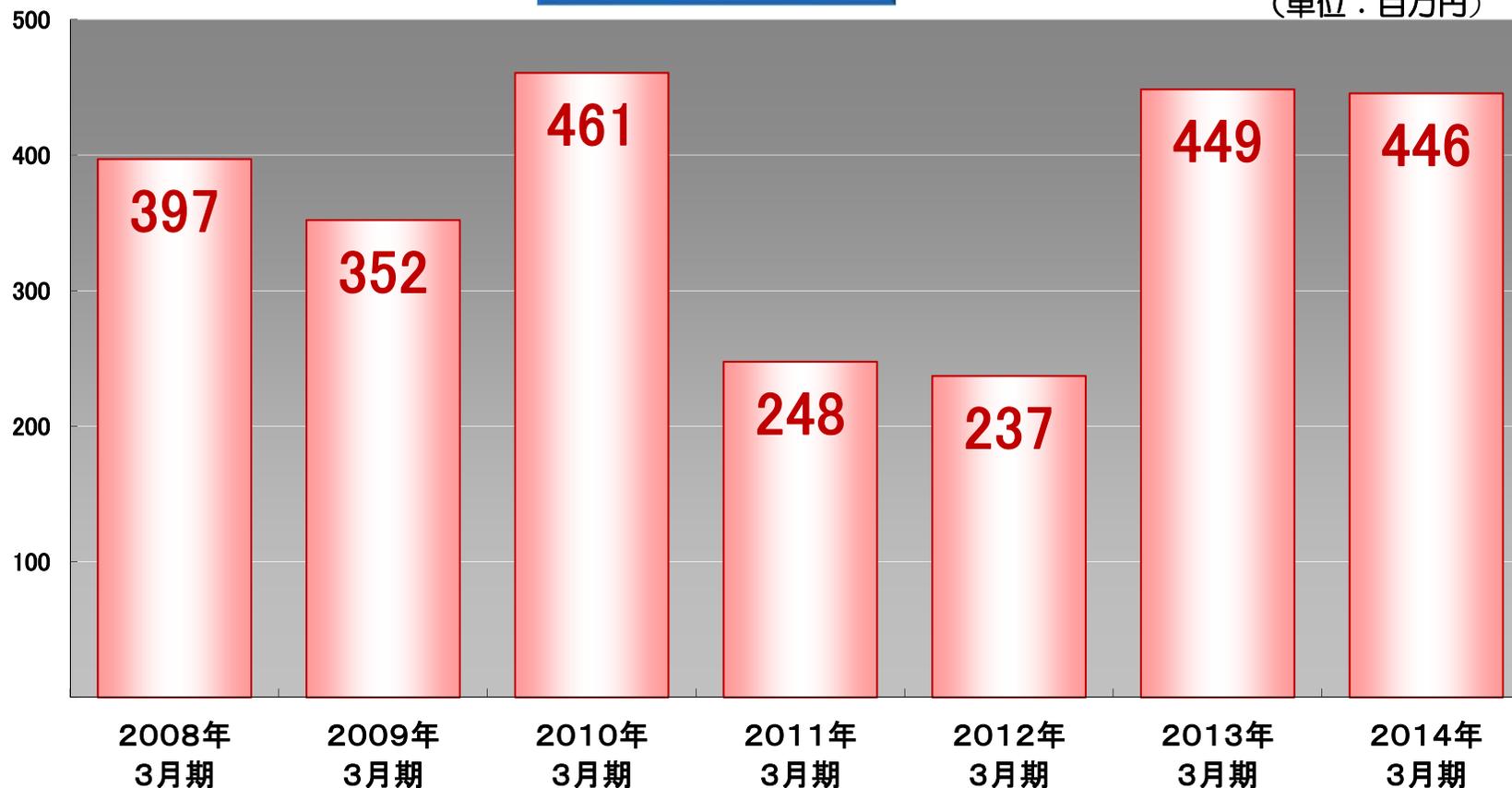


- 主要事業区分（システム運用管理等＋システム販売）の構成比は64.2%でありました。

2014年3月期 営業利益の推移

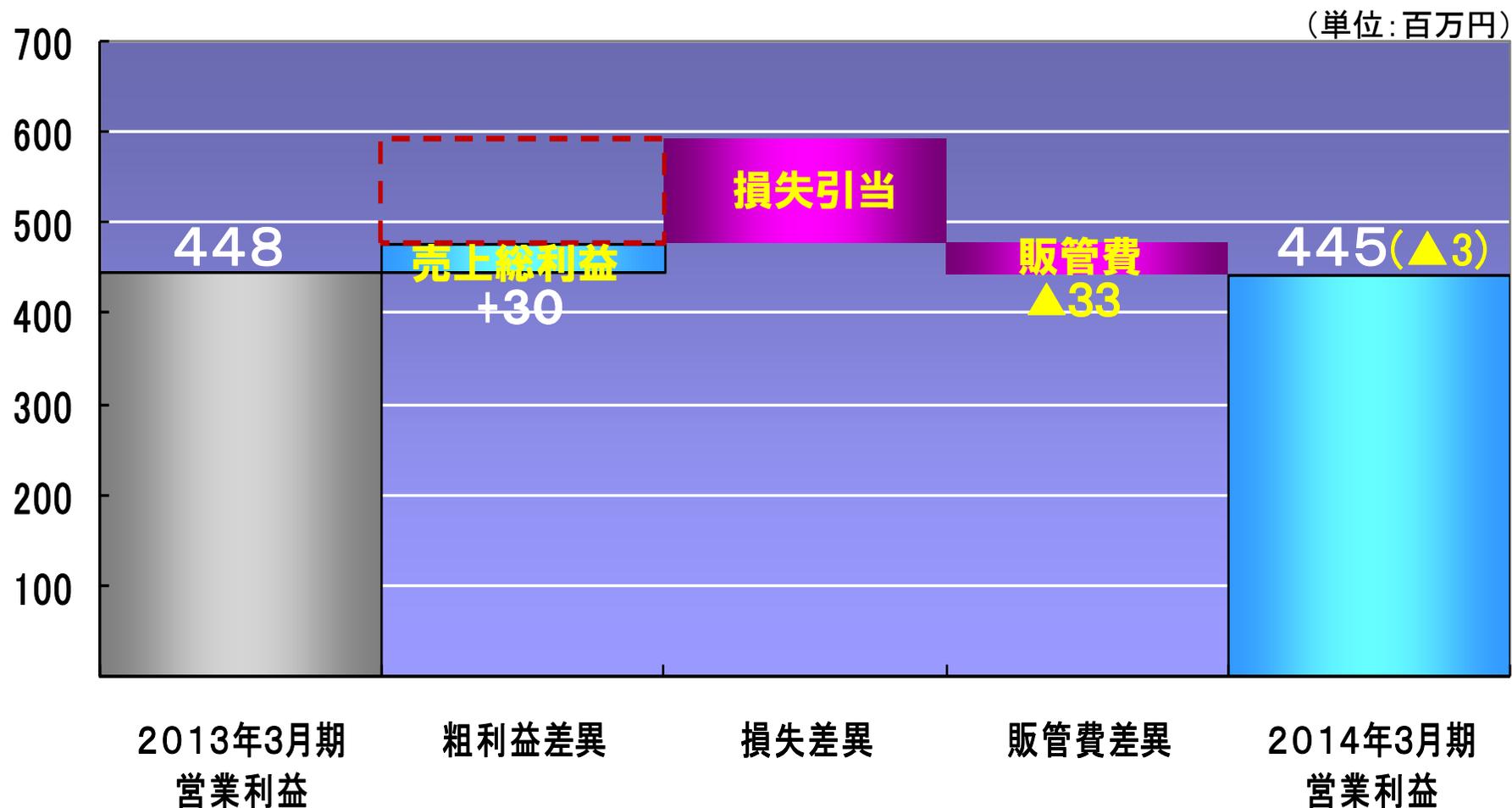
営業利益

(単位：百万円)



- 営業利益は増益の傾向が足踏みとなりました。

2014年3月期 営業利益分析



- 増収となったが開発の遅延、アフターコストにより売上総利益は微増、販売費・一般管理費の増加により営業利益は減益

2014年3月期 事業区分別のセグメント利益

区分	2013年3月期 セグメント利益 (A) (百万円)	2014年3月期 セグメント利益 (B) (百万円)	前期比 (B-A) (百万円)	増減率
システム運用・管理等	719	740	21	3.0%
システム販売	309	294	▲14	▲4.8%
ソフトウェア開発	158	172	14	9.3%
機器等販売	127	103	▲24	▲19.1%
調整額（販売費・一般管理費）	▲865	▲865	0	0%
合 計	448	445	▲3	▲0.7%

- 「システム販売」は、画像処理システム減少による原価上昇及び案件の利益率低下により減益
- 「ソフトウェア開発」は、個々案件の採算性が改善したことにより増益
- 「機器等販売」は、案件の利益率低下により減益

2014年3月期 連結財務諸表

(単位：百万円)

資産の部		負債の部	
流動資産	4,203	流動負債	2,780
		固定負債	575
		負債合計	3,355
固定資産	2,344	純資産の部	
		純資産合計	3,192
資産合計	6,547	負債・純資産合計	6,547

2014年3月期 連結財務諸表

(単位：百万円)

資産の部		負債の部	
<p>【純資産合計】 前期比で <u>4.2%増加</u></p> <p>【自己資本比率】 <u>48.6% → 48.8%</u></p>		流動負債	2,780
		固定負債	575
		負債合計	3,355
		純資産の部	
	純資産合計	3,192	
資産合計	6,547	負債・純資産合計	6,547

2014年3月期 連結財務諸表

(単位：百万円)

資産の部		負債の部	
流動資産	4,203	流動負債	2,780
		固定負債	575
		負債合計	3,355
		純資産の部	
		純資産合計	3,192
資産合計	6,547	負債・純資産合計	6,547

【1株当たり純資産】
前期比で 87円49銭 増

一株当り純資産 2,157円 30銭

2014年3月期 14中計との損益比較

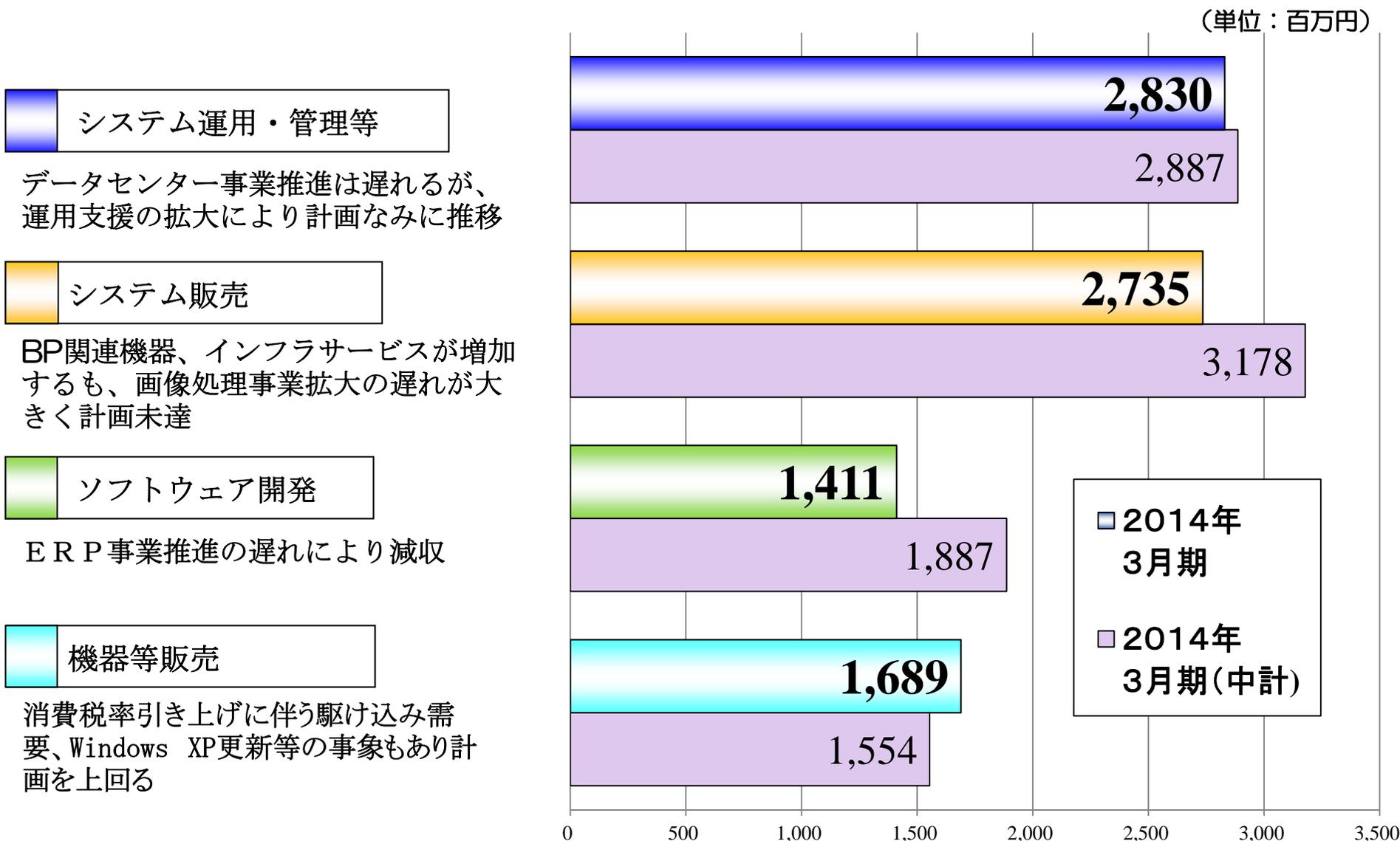
(単位：百万円)

【連結】	14中計(A) 2014年3月期	決算(B) 2014年3月期	差異 (B-A)	増減率
売上高	9,506	8,666	▲839	▲8.2%
売上総利益 (利益率)	1,925 (20.3%)	1,834 (21.2%)	▲91	▲4.7%
販売管理費	1,413	1,389	▲24	▲1.7%
営業利益	512	445	▲67	▲13.1%
経常利益	505	460	▲45	▲9.0%
当期純利益	—	252	—	—

2014年3月期決算は、14中計(2014年3月期)に対し「減収、減益」でありました。

- 売上高は、システム販売、ソフトウェア開発が計画を大きく下回り減収
- 利益は、売上高の減収により減益

2014年3月期 1 4中計事業区分との比較



システム運用・管理等

データセンター事業推進は遅れるが、運用支援の拡大により計画なみに推移

システム販売

BP関連機器、インフラサービスが増加するも、画像処理事業拡大の遅れが大きく計画未達

ソフトウェア開発

ERP事業推進の遅れにより減収

機器等販売

消費税率引き上げに伴う駆け込み需要、Windows XP更新等の事象もあり計画を上回る

2014年度見通し

IT業界の最近の動向（市場）



短期的には市場の拡大が予想されるが・・・



長期的には低成長の国内経済及び国内企業の海外進出に伴い、市場の大幅な成長は期待しがたいと予想される。

2014年度実績予想 — 当期実績との対比 —

(単位：百万円)

決算年度 【連結】	2013年度 実績(A)	2014年度 予想(B)	計画比 (B-A)	増減率
売上高	8,666	9,141	475	5.5%
売上総利益 (利益率)	1,834 (21.2%)	1,910 (20.9%)	76	4.1%
販売管理費	1,389	1,470	81	5.8%
営業利益	445	440	▲5	▲1.1%
経常利益	460	446	▲14	▲2.9%
当期純利益	252	263	11	4.5%

2014年度業績予想は、当期実績(2013年度)に対し「増収、増益」の見通しです。

- 売上高は、システム販売、ソフトウェア開発が増加して増収
- 利益は、販管費の増加により営業利益、経常利益は減益となるも、当期純利益は増益

2014年度実績予想 — 当期実績区分との対比 —

(単位：百万円)

システム運用・管理等

データセンター業務拡大の遅れもあり、前年並みを想定

システム販売

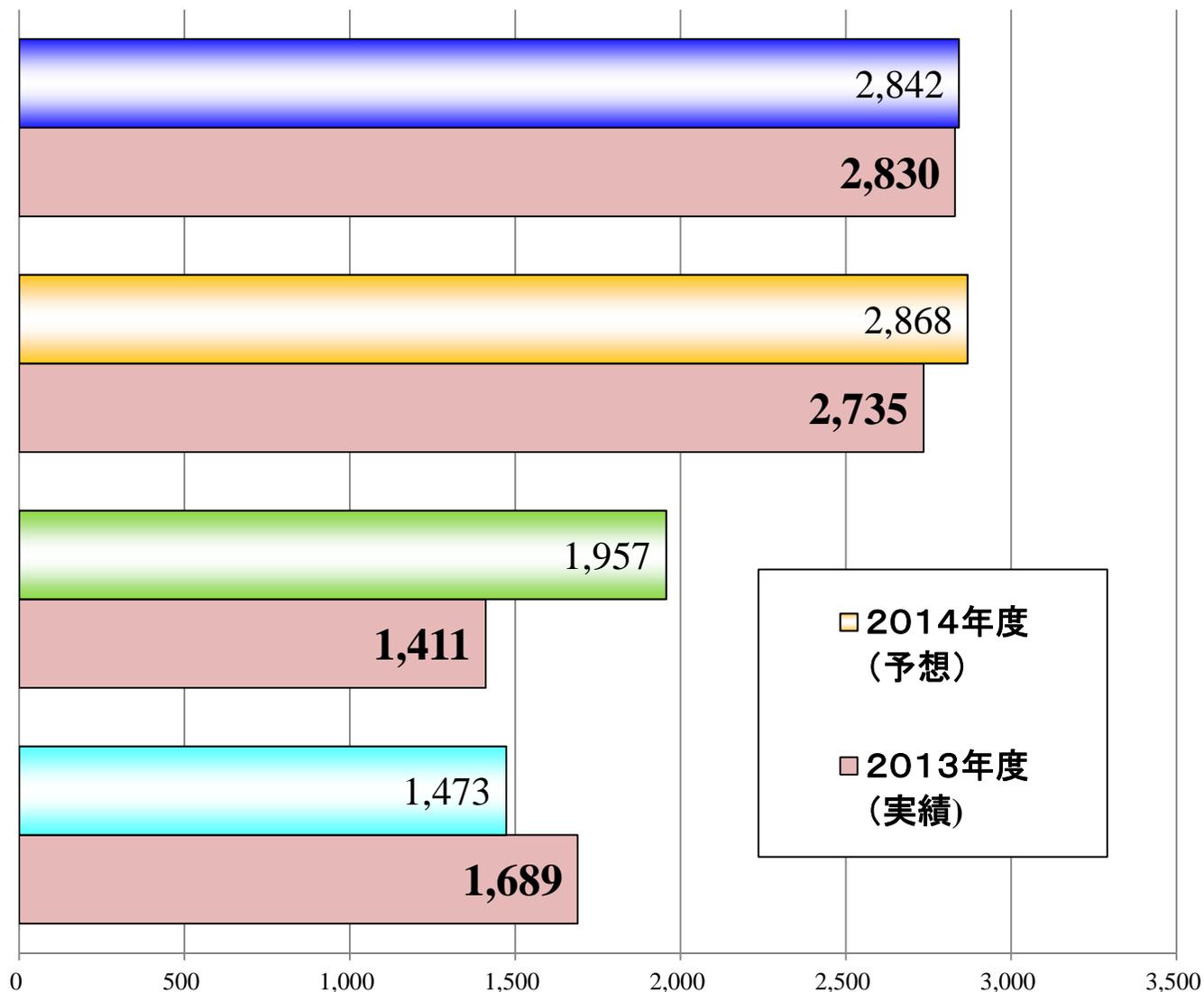
画像処理事業の回復等により増収

ソフトウェア開発

期ズレ案件及び新規受注で増収

機器等販売

消費税率引き上げの反動等、駆け込み需要が一段落するため減収



2014年度実績予想 — 14中計との対比 —

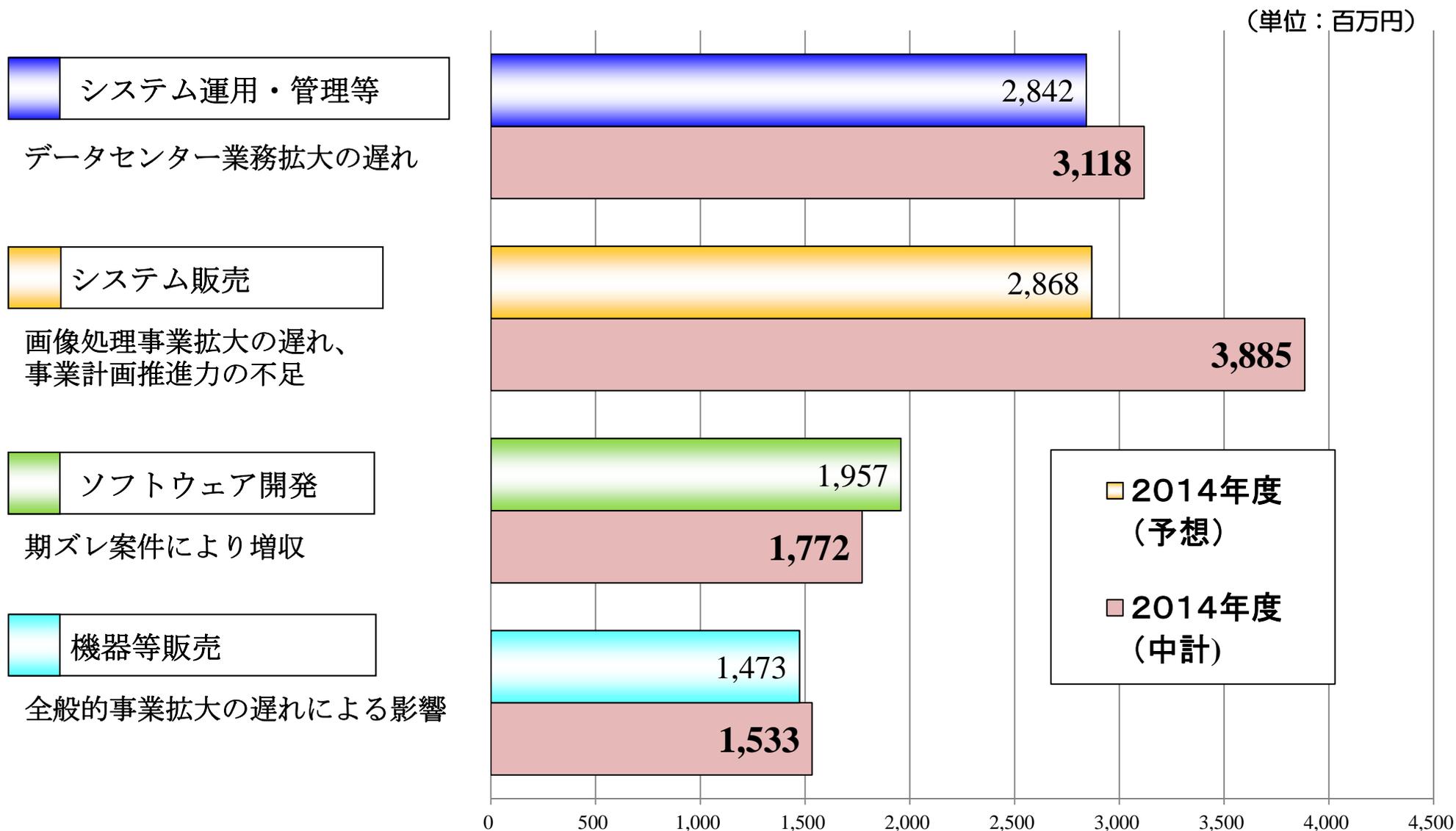
(単位：百万円)

決算年度 【連結】	2014年度 中計(A)	2014年度 予想(B)	計画比 (B-A)	増減率
売上高	10,308	9,141	▲1,167	▲11.3%
売上総利益 (利益率)	2,118 (20.6%)	1,910 (20.9%)	▲208	▲9.8%
販売管理費	1,468	1,470	1	0.1%
営業利益	649	440	▲209	▲32.2%
経常利益	645	446	▲199	▲30.8%
当期純利益	—	—	—	—

2014年度業績予想は、14中計最終年度の計画に対し「減収、減益」の見通しとなる。

- 売上高は、システム販売、システム運用・管理等、ソフトウェア開発が計画を大きく下回る
- 利益は、売上高の減収により減益

2014年度実績予想 — 14中計区分との対比—

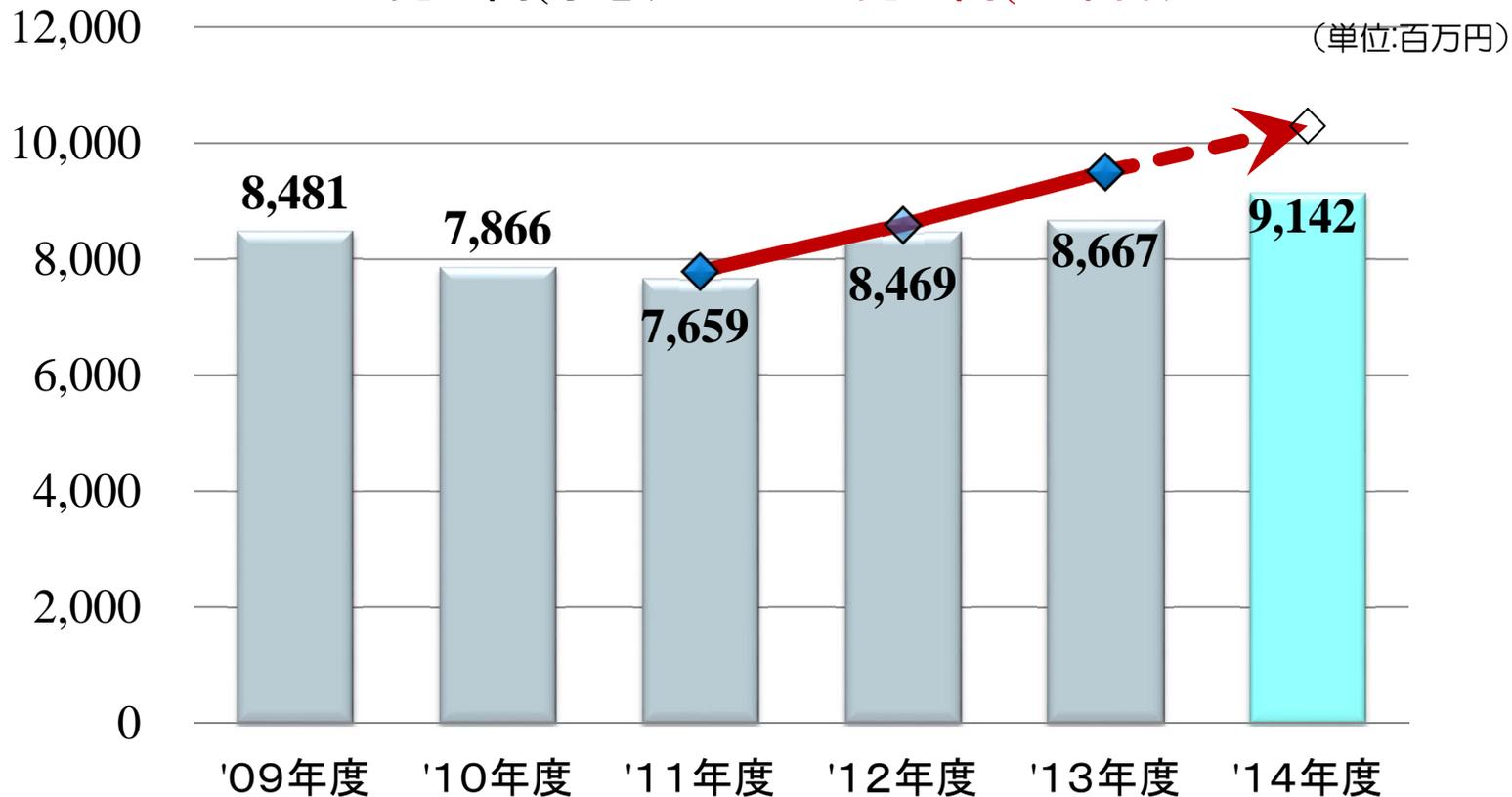


14中計見通し —売上高—

連結

【売上高の実績・予想と14中計】

■ 売上高(予想) ◆ 売上高(14中計)

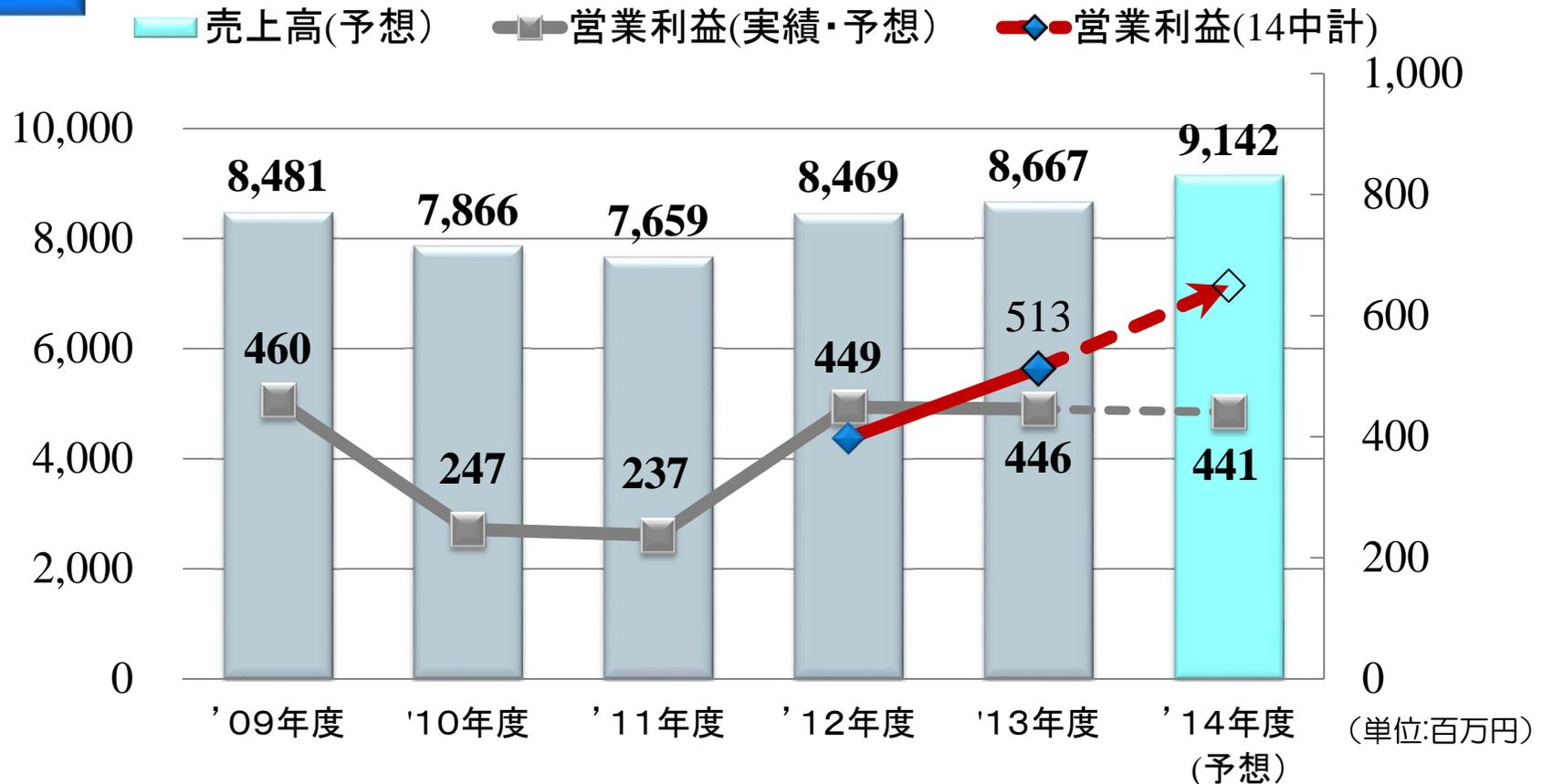


- 今年度の売上高は14中計を下回る見通しではありますが、引き続き新商品開発による新規顧客開拓、顧客満足度の向上と更なる営業力強化に取り組めます。

14中計見通し — 営業利益 —

連結

【営業利益の実績・予想と14中計】



- 2014年度は、営業強化と将来に向けた投資を実施し予想は減益ですが、赤字案件防止、生産性向上に取り組み14中計で掲げた重点施策等に取り組みます。

2014年度について

14中計最終年度にあたり、非常に厳しい見通しとなったが・・・

当社グループは引き続き計画達成に向け

- 画像処理システム、生コンクリート業界向けシステム及び医療システム等 システム販売の拡大
- データセンタ業務等システム運用管理等の拡大
- ERP事業の推進を行う。

見通しに関する注記事項

本資料中の予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成されており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合がありますので、その点ご承知おき頂きますようお願い致します。

お問合せ先は、下記にお願いいたします。

- ・ パシフィックシステム株式会社 総合企画部
- ・ 電話 : 048-845-2200
- ・ FAX : 048-845-2260
- ・ URL : <http://www.pacific-systems.co.jp/>

